



待望のクビアカツヤカミキリ防除マニュアルをお届け

森林昆虫研究領域:加賀谷 悦子 クビアカツヤカミキリコンソーシアム

コンソーシアム 参画機関: 森林総合研究所 (森林昆虫研究領域、東北支所、関西支所、四国支所)、徳島県立農林水産総合技術支援センター、栃木県農業試験場、大阪府立環境農林水産総合研究所、日本大学生物資源科学部、農業・食品産業技術総合研究機構、(公財) 埼玉県生態系保護協会、(株) マップクエスト、和歌山県、愛知県森林・林業技術センター、大日本除虫菊(株)

クビアカツヤカミキリの日本への侵入が確認されてから約10年が経ちました。本種の幼虫はサクラやウメ・モモの樹皮下を食害して、時にはそれらの樹木を枯死させます。現在、本州と四国の12都府県で緑化木や果樹に甚大な被害が生じている一方、効果的な対策指針が示されておらず、被害地では手探りの防除活動が続いていました。新規侵入害虫のため使える農薬は少なく、「いつどのような防除をすればいいのか」が分からなかったからです。森林総合研究所が中核機関となり、11団体が共同するプロジェクトで本種の生態を解明し、さまざまな防除方法の効果を検証して対策方針を整え、その成果をとりまとめた防除マニュアルを発行しました。

成果

■ 新天地での害虫化

昆虫は原産地と侵入先ではふるまいを変え、時として侵入先では外来種として甚大な被害を生じさせる害虫となることがあります。例えば、アジア産のアオナガタムシは、原産地では木々を枯らすことはありませんが、侵入先の北米では大発生してトネリコ属をひどく加害しています。クビアカツヤカミキリは、もともとは中国、ロシア、ベトナム、朝鮮半島等に分布し、原産地ではモモの害虫として知られ、サクラ、ウメ、モモなどサクラ亜科の樹木を選好します。日本では各地にサクラが植えられ、ウメ・モモの果樹園地が多くあります。好適な餌資源が多い日本に侵入したクビアカツヤカミキリは、この10年間で瞬く間に日本国内における最も深刻な樹木害虫の一つとなってしまいました。

■ 手探りの対策から効果の高い防除技術の確立へ

外来種は、侵入後しばらくはその詳しい生態が不明であることから、その駆除技術が確立できていない状態での対策が必要になります。クビアカツヤカミキリも同様で使用できる農薬が極めて少なく、また成虫の発生時期や幼虫の活動期も不明だったことから、侵入当初は効果的な防除がなかなか行えませんでした。さらに、被害木には個人の財産である果樹や地域で愛されてきたサクラが含まれ、被害木を伐倒して駆除することへの合意がなかなか得られませんでした。そのため被害地の自治体をはじめ樹木管理者や自然保護団体は、手探りの状態で被害地調査と防除活動に取り組みざるをえませんでした。そのような状態を打破するために、私たちは11団体から成るコンソーシアムを立ち上げ、平成30年度から4年間、本種の生態を明らかにし、防除技術を確立するためのプロジェクトを実施しました。

■ マニュアルとリーフレットの発行

現場で本種の対策に携わる人や団体、行政関係者などを対象として、防除対策をわかりやすく伝えるために、マニユ

ル「クビアカツヤカミキリの防除法」を発行しました。ここでは、侵入状況の異なる各現場で、「いつどのような防除をすればいいのか」を示しています。例えば、幼虫を駆除するために木に薬剤を注入する樹幹注入処理は、幼虫が活動を再開する晩春や、1年目の孵化幼虫が穿孔を開始する夏期に実施することを提案しました。作成にあたり写真を多く掲載して、防除の実践に際してのちょっとしたコツを含めて伝えるとともに、昆虫になじみのない方でも使えるよう、平易な表現で解説しました。

また、本種の被害木の全てを、担当の行政職員や専門家のみで探すことは困難です。広く市民一般に協力を求めるために、リーフレット「ご用心！クビアカツヤカミキリはすぐそこに」を作成し、その中で「クビアカツヤカミキリってどんな虫？」や「探して！クビアカツヤカミキリ」などの情報を提供して外来種対策体制の強化へと繋げました。リーフレットは広げると裏は被害発見を呼び掛けるポスターになります。

マニュアルとリーフレットは、研究所のウェブサイトからダウンロードできます (<https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/chukiseika/5th-chuukiseika12.html>)。これらが本特定外来生物の防除につながるよう願っています。

研究資金と課題

本研究は、生物系特定産業技術研究支援センターのイノベーション創出強化研究推進事業(開発研究ステージ)「サクラ・モモ・ウメ等バラ科樹木を加害する外来種クビアカツヤカミキリの防除法の開発」(30023C)による成果です。

文献および参照サイト

クビアカツヤカミキリコンソーシアム(2022)クビアカツヤカミキリの防除法。国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所, 28pp.

親しみやすい
デザインで
市民にアピール。
裏はポスター

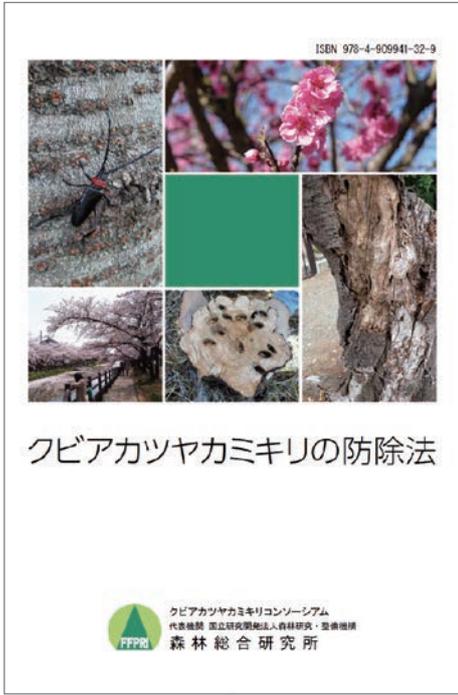


図1 クビアカツヤカミキリ対策に関わる人に向け発行したマニュアル「クビアカツヤカミキリの防除法」表紙



図2 一般向けリーフレット「ご用心! クビアカツヤカミキリはすぐそこに」

発育の態		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
成虫活動期							■	■	■				
卵のある時期							■	■	■				
幼虫活動期						■	■	■	■	■	■	■	■
対象	何をする	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
成虫	捕殺						■	■	■				
	樹木への網掛け					■	■	■	■				
	薬剤散布						↑	↑	↑				
	生物農薬 (昆虫寄生菌)						↑						
幼虫	フラス探索					■	■	■	■	■	■	■	■
	掘り取り					■	■	■	■	■	■	■	■
	伐倒駆除	■	■	■	■								
	薬剤による個別駆除					■	■	■	■	■	■	■	■
	樹幹注入						↑			↑			
		■ サクラ・果樹共通				■ 防除適期				↑ 施用タイミング			
		■ サクラのみ				■ 網掛けをしなくても防除可能							

図3 クビアカツヤカミキリの成虫や幼虫をいつ、どのように防除すればよいのか(「クビアカツヤカミキリの防除法」より)